

久礼川水系河川整備基本方針

平成23年5月

高 知 県

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針-----	1
(1) 流域及び河川の概要-----	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針-----	3
ア 災害の発生の防止又は軽減に関する事項-----	3
イ 河川の適正な利用及び 流水の正常な機能の維持に関する事項-----	3
ウ 河川環境の整備と保全に関する事項-----	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項-----	4
(1) 基本高水並びにその河道及び 洪水調節施設への配分に関する事項-----	4
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項-----	4
(3) 主要な地点における計画高水位及び 計画横断形に係る川幅に関する事項-----	5
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を 維持するため必要な流量に関する事項-----	5
 (参考図) 久礼川水系図	 巻末

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 流域及び河川の概要

流域の概要

久礼川は、その源を高岡郡中土佐町の檮山（標高 842m）に発し、狭流をなして南東に流れ、山間部の平地を縫って流下している。その後、国道 56 号、JR土讃線を横切った後、中土佐町の中心地である久礼地区で支川長沢川と合流し、久礼湾に注ぐ流域面積 40.96km²、流路延長 9.4km の二級河川である。

流域の土地利用は、山林が約 93%、農地が約 5%、宅地等の市街地が約 2%となっている。特に人家が密集している久礼地区は、河口付近の右岸側に広がり、漁師町の景観が見られる。また、中流域には谷底平野が広がり、沿川に集落が点在している。このため、久礼川流域の人口は約 2,800 人であり、中土佐町の人口約 8,300 人（平成 17 年国勢調査）の 34%を占めている。また、想定氾濫区域は流域外にまで広がっており、想定氾濫区域内人口は約 3,000 人と流域内人口を上回っている。

気候・地形・地質状況

久礼川流域の気候は、太平洋岸式気候に属し、年平均気温は 16～17℃程度であり、一年を通して温暖な気候を示す。また、年平均降水量は下流域でも 2,600 mmを超え、中・上流域では 3,000mm 以上に達する日本でも有数の多雨地帯である。

久礼川流域の地形は、大半が小～中起伏の山地に占められ、河床勾配は下流域でも 1/300 と急流である。また、中流域には幅 200～300m の谷底平野が形成され、下流域は海に向かって開けた平野の地形となっている。また地質は、西南日本外帯の四万十帯に属し、ほとんどが新第三紀に形成されたものとなっている。構成される地質は大半が泥岩がちの互層であり、一部にチャート層を挟在している。また、下流域の一部は、沖積世に形成された砂層を主とする堆積物となっている。

社会環境

久礼川流域は、高知県中西部に位置し、中土佐町 1 町からなる。

中土佐町は、平成 18 年 1 月 1 日、久礼川流域が位置する海岸部の旧中土佐町と四万十川の源流域の旧大野見村が合併して誕生した新しい町である。流域の主要産業は、高温多湿な気候を利用した農業および黒潮の恩恵をうけた漁業であり、特に「土佐の一本釣り」として鰹漁が全国的にも有名である。また、今後 8 の字ルートの一翼を担う高規格道路網の整備が進むこともあり、須崎市と並ぶ高幡広域生活圏の中心地として、水産業を中心とした今後の発展が期待されている。

治水・利水の歴史

久礼川は急流河川であり、かつ流域の年間の降雨が梅雨期と台風期に集中して降る。このため、雨が少ない渇水期になると河川流量は少なくなる一方で、出水期にはたびたび氾濫しており、昭和47年、50年、52年の洪水により大きな被害が生じたほか、近年においても平成10年、16年に家屋浸水の被害が発生している。

久礼川および支川における本格的な治水事業としては、支川長沢川において昭和37年に小規模河川改修事業に着手し、久礼川合流点から上流約1,300m区間において改修を実施し、昭和46年に完了している。久礼川においては昭和57年から小規模河川改修事業に着手し、久礼橋（河口）から国道大川橋下流までの1,440mを対象に整備が進められてきており、現在では道の川合流点（河口から1.10km）付近まで、堤防の引堤や護岸整備の改修工事が完了している。

河川水の利用については、主にかんがい用水として利用されており、水道用水・工業用水としての利用はない。

自然環境

水質については、全川において環境基準A類型に指定されている。河川の水質を示す代表的な指標であるBOD75%値でみると、環境基準点である和田川橋^{わだがわばし}では経年的に環境基準であるBOD2.0mg/l以下である。さらに平成7年以降は、概ね環境基準AA類型（BOD1.0mg/l以下）相当の水質を維持しており、良好な水質となっている。

久礼川の上流域は、起伏のある山地部を、狭流をなして流れている。山林の大半はスギ、ヒノキの植林地とシイ、アラカシ等の里山となっており、一部にウラジロカシ、サカキの自然林が残っている。

中流域に至ると、谷底平野が形成され、沿川は主に水田となっている。また、概ね、掘込河道の形態となっており、護岸が整備され、川沿いにはスギやアラカシからなる河畔林が密生している箇所が多く、樹林に生息するシジュウカラやメジロ、溪流を好むキセキレイやカワセミ、周辺の水田を採餌場とするチュウサギなどが生息している。河道内については瀬と淵はあまり発達しておらず、水際部の砂州にはツルヨシ、ヤナギタデ等が繁茂しており、アユ、カワムツ、ボウズハゼ等の魚類やチカラカゲロウやコシボソヤンマ等の底生動物が生息している。

国道大川橋（河口から1.45km）より河口までの下流域では、平野が開け、沿川は農地のほか宅地も多くなっており、河口から1.00km付近には明瞭な淵が形成されており、釣りや遊泳等に利用されるなど、流域の人々に親しまれている。河口から1.00km付近より下流の感潮区間になると、川幅は広くなり、河道内には州や干潟が形成され、タケノコカワニナ、カワスナガニ等が生息しているとともに、アユ、ウグイ、カワムツを中心にメダカ、ボウズハゼ、タネハゼ、クロコハゼ等の魚類が生息しており、カワセミなどの採餌環境となっている。また、支川長沢川合流点上流の右岸にある竹林はチュウサギのねぐらとなっている。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

当該水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、河川改修の状況、水害の発生状況、河川環境の保全並びに流域の将来像を考慮するとともに、地域住民に対して積極的に河川の情報を提供し、地域住民との関係をより密にし、久礼川流域の総合的な整備と保全を図る。

河川の維持管理に関しては、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持および河川環境の整備と保全の観点から、河川の有する多様な機能を十分に発揮できるよう適切に行う。このために、流域内及び河川内の水理・水文などの情報を適切に収集しつつ、河道の浸食や堆積の状況などを把握のうえ、安定的な河道の維持に努める。また、河川の維持管理には、地域住民や関係機関との連携・協力が不可欠であることから、その体制づくりを推進する。

ア 災害の発生の防止又は軽減に関する事項

災害の発生の防止又は軽減に関しては、堤防の引堤や河道掘削等の河道整備を行うことにより、計画規模の洪水を安全に流下させる。

計画規模を上回る洪水や整備途上段階で施設能力以上の洪水が発生した場合においても、被害をできるだけ軽減できるよう、高知県防災情報システムを活用した情報収集及び情報提供や、関係機関や地域住民との連携による情報伝達体制、避難警戒体制等の充実を図る。また、関係機関と連携し、防災訓練への住民参加の呼びかけ等を行い、災害時のみならず平常時からの防災意識の向上を図る。

イ 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

河川水の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、河川流況の把握に努めるとともに、利水者との連絡調整を図り、効率的な農業用水の利用がなされるよう努める。また、渇水時には、流域住民及び水利用者に対し情報を提供し、流況の著しい悪化の緩和に努める。

現在の良好な水質を維持するために、関係機関と連携し、地域住民と一体となった河川愛護活動等を実施していく。

ウ 河川環境の整備と保全に関する事項

河川環境の整備と保全に関しては、多様な動植物の生息・生育する自然豊かな河川環境を保全するとともに、流域の人々に親しまれ、利用されている状況を踏まえ、良好な河川環境の整備と保全に努める。このため、河川改修工事の際には、河床においてはみお筋を設け、水際部を緩勾配とするとともに水生生物の生息環境に配慮した護岸構造とするなど、良好な河川環境の維持を図る。特に、河口付近にある干潟は、タケノコカワニナやカワスナガニ等が生息する良好な河川環境となっていることから、できるだけ河川環境への影響の回避・低減に努める。

また、流域住民が河川を身近に感じられるような周辺環境に調和した河川環境の整備と保全に努める。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調整施設への配分に関する事項

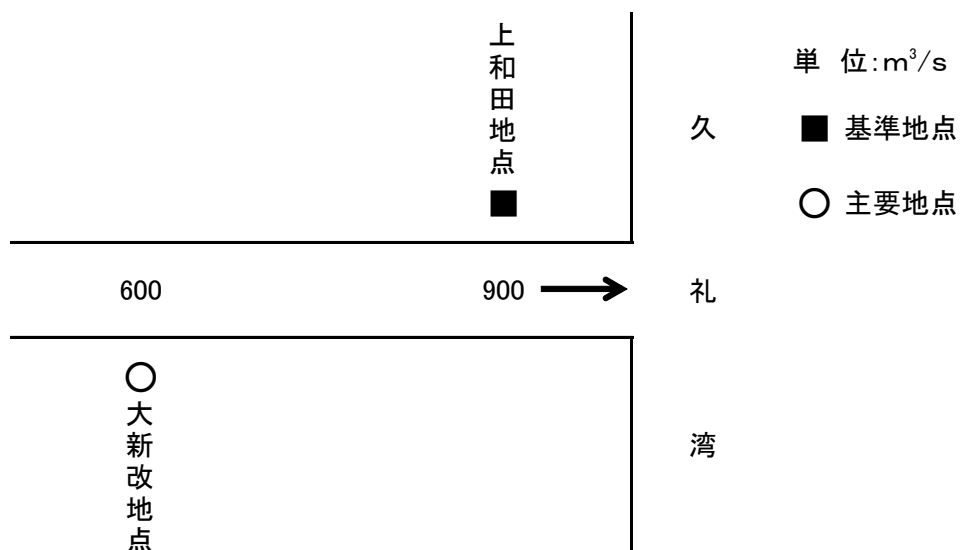
当該水系における基本高水のピーク流量は、流域面積、資産の集積度等を考慮して、基本高水のピーク流量を基準地点^{かみわだ}上和田において $900\text{m}^3/\text{s}$ とし、全量を河道へ配分する。

基本高水のピーク流量一覧表 (単位： m^3/s)

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	河道への配分流量
久礼川	上和田	900	900

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

当該水系における計画高水流量は、大新改地点^{おおしんがい}において $600\text{m}^3/\text{s}$ とし、その下流において長沢川及びその残流域からの流入量を合わせ上和田において $900\text{m}^3/\text{s}$ とする。



久礼川計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次のとおりとする。

主要な地点における計画高水位等

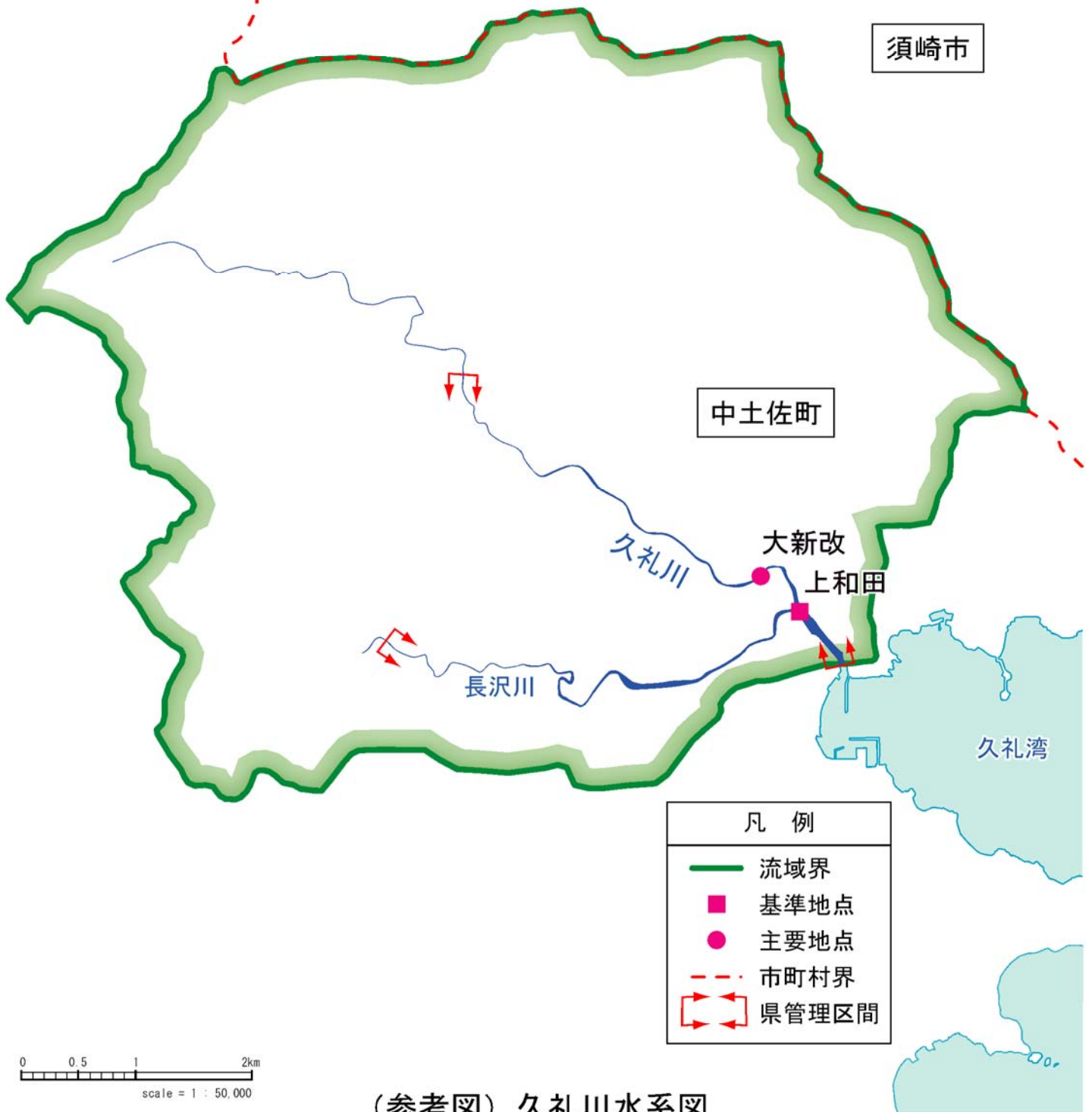
河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P. (m)	川幅 (m)
久礼川	大新改	1.30	4.83	53
〃	上和田	0.55	2.92	72

注) T.P. : 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

久礼川における水利用は、農業用水として慣行水利権がある。現地調査及び聞き取り調査の結果、濁水による問題は特に生じていない。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量については、今後、流況等による河川の状況を把握するとともに、関係機関と連携し、水利用の実態について把握のうえ決定するものとする。



(参考図) 久礼川水系図